

- 1 教育事業名 「とかしきボランティアスクール及び自然体験活動指導者（NEAL）養成事業①②」
- 2 ねらい ①これからボランティア活動を始めの方を対象にボランティア活動への理解を深め、ボランティア活動に向けた期待と意欲を高めるとともに、必要な基礎的知識・技術を習得させる。  
②自然のなかで感性を磨いたり、専門的な知識と技術を持って自然体験活動の普及や新興に貢献する自然体験活動指導者（NEALリーダー）を養成する。
- 3 期 日 ①令和元年5月25日（土）～26日（日）1泊2日  
②令和元年6月8日（土）～9日（日）1泊2日
- 4 場 所 国立沖縄青少年交流の家
- 5 募集定員 30名程度
- 6 参加人数 ①とかしきボランティアスクール 24名  
②自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成事業 11名
- 7 参加者内訳 ①とかしきボランティアスクール 24名  
高校生13名 大学生6名 大人5名  
（男性11名、女性13名）（県内24名）  
②自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成事業 11名  
高校生4名 大学生2名 大人5名
- 8 講師
- ・大城 敏（パドリングガイド漕店代表・主任講師）  
講義・演習「ボランティア活動の技術」  
講義「ガイダンス」  
講義・演習「対象者理解」  
講義・演習「自然体験活動の技術」  
講義「自然体験活動の特質」  
講義「自然体験活動の指導」, 「認定試験」
  - ・木島 悠太郎氏（特定非営利活動法人沖縄ウォーターパトロールシステム）  
講義・演習「安全管理」
  - ・平野 貴也氏（名桜大学人間健康学部スポーツ健康学科教授）  
講義「青少年教育」
  - ・三田井 裕 国立沖縄青少年交流の家 所長  
講義「青少年教育施設の現状と運営」
  - ・竹内 弓人氏（法人ボランティア）  
講義「ボランティア活動の意義」
  - ・照屋 藍連（国立沖縄青少年交流の家）  
事業推進係企画指導担当  
講義「青少年教育施設におけるボランティア活動」

9 実施プログラム

とかしきボランティアスクール及び自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成事業①

5月25日	9:00		10:00	11:30	12:00	12:30	14:00			18:00	19:30	19:00	19:30	21:30
	集合受付	フェリー	オープニング	昼食	講義① 「青少年教育」 共通	講義・演習② 「ボランティア活動の技術」 共通	夕食	移動	入浴	講義③ 「青少年教育施設におけるボランティア活動」 法人ボランティア	就寝			
5月26日	6:00		7:00	8:30	11:30		12:00	13:00	14:30	15:30	16:00			
	起床	朝のつどい 朝食	共通講義・演習④ 「安全管理」 共通	昼食	講義⑥ 「青少年教育施設の 現状と運営」 法人ボランティア	講義⑤ 「ボランティア活 動の意義」 法人ボランティア	エンディング・ アンケート	移動	フェリー					

自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成事業②

6月8日	9:00		10:00	11:30	12:00	13:00	14:00	17:00			17:30	19:00	20:30	21:30	23:00
	集合受付	フェリー	オープニング	昼食	講義 ガイダンス	講義⑨ 「自然体験活動の特質」	タベのつどい	夕食	入浴	講義・演習⑨ 「対象者理解」	講義・演習② 「自然体験活動の技術」	情報交換会	就寝		
6月9日	6:00		7:00	9:00	10:30	11:30	13:00	13:30	14:00	14:45	16:00				
	起床	朝のつどい 朝食	講義⑩ 「自然体験活動の指導」	講義・演習② 「自然体験活動の技術」	昼食	試験勉強	認定試験	エンディング アンケート	移動	フェリー					

## 9 事業の様子



青少年教育



海洋研修



テント設営



野外炊事



ボランティア活動



安全管理



自然体験活動の指導



自然素材クラフトの材料調達



ロープワーク

## 10 エピソード（参加者の声、アンケートより）

### 【参加者の声】

- ・講義「青少年教育」では体験活動の必要性について、現状をとりまく環境の要因なども含め理解できた。
- ・ボランティアには魅力が沢山あると感じた。ボランティア活動に参加し自分の成長に繋げたい。
- ・演習「ボランティア活動の技術」では、渡嘉敷の自然の中で普段学ぶ事のできない貴重な体験ができた。
- ・実際に体験する、直接体験から学ぶ事が多くあった。
- ・ボランティアについて深く考え意見を出し合うことで共通理解を深めることができた。
- ・自然素材を活用したクラフトづくりやロープワークを学ぶ中で、参加者との交流も深めることができた。
- ・普段とは違う環境で新たな事に取り組む事ができて、とても貴重な体験になった。
- ・活動的な講義で、より実践的な内容で分かりやすかった。
- ・スケジュールがタイトだった。

## 11 担当者所見

### (1) 成果

- ・「ボランティア活動の意義」「青少年教育施設におけるボランティア活動」の講義を実施したことで参加者がボランティア活動の魅力を感じ、自己の成長に繋がりたい等の目的を持つ多くのボランティア登録に繋げることができた。
- ・「青少年教育」「青少年教育の現状と運営」の講義を実施したことで、急速な社会変化の中での恩恵・弊害について考え、実際に自然体験活動を行う重要性について理解する事ができた。
- ・「安全管理」の演習の中で応急手当について学び、緊急時の対応について知識・技能を高めた。また、講義・実技の両面から行った事で理解度の高い学びとなった。
- ・ボランティアスクール②では、自然体験活動を指導する意識も持たせながら講習を行ったことで、参加者の学びの意欲が高く保たれたと感じた。また、講師に積極的に質問する場面も多く見られ、自然体験活動指導者としての心構えができたと考えられる。

### (2) 課題

- ・大学生の参加が例年と比べると減少したことから、各大学への広報に一層力を入れる必要がある。
- ・ボランティアスクール①について、「日程がタイトだった」との声があり、次年度開催時期は2泊3日開催も視野に入れて検討する必要がある。
- ・法人ボランティア登録者の今後の活動機会を増やすために、ボランティア募集連絡を計画的に行い事業へ関わられるよう、先輩ボラと関わる機会を設ける。